

# リゾート会員権

## 高価格帯けん引

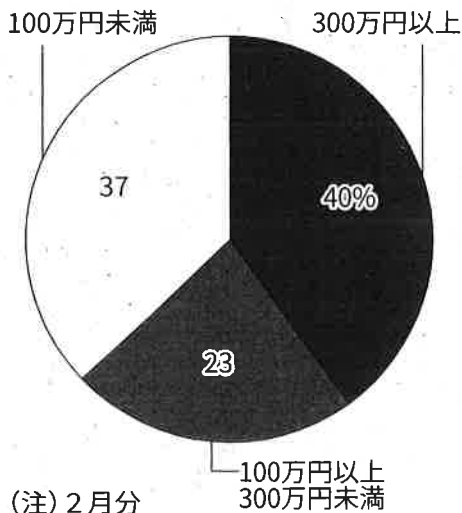
リゾート会員権やゴルフ会員権の売買市場を、高価格帯の取引がけん引している。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の感染拡大を背景に全体の取引は低調だが、富裕層は海外旅行などの代替としてリゾート施設やゴルフへの関心が引き続き高い。

リゾート会員権の販売を仲介するe会員権(横浜市)がまとめた2月の会員権の平均価格は、前月から8.8%高の395万円。過去最高値を更新した。

2月の全体の取引件数は

### 2月8.8%上昇で最高値

リゾート会員権は300万円以上の取引が最も多かった



(注) 2月分  
(出所) e会員権

前月比27%減った。オミクロン拡大で「不安定な情勢から取引の様子見る傾向がみられた」(e会員権の涌井智子代表)という。

取引件数が最も多かったのは、2月に値上がりした商品は32件。値下がり商品(19件)を大きく上回った。涌井代表は「昨年から続く会員権相場の上昇基調を見ても、売り手が値段を高め

るのは300万円以上の高価格帯で、全体の40%を占めた。前月より5%上昇した。高価格帯が最も多くなるのは、2018年1月以来、約4年ぶりという。

### ゴルフも高値推移続く

設定するケースが増えた」と話す。

関東ゴルフ会員権取引業協同組合(東京・千代田)がまとめた2月の関東圏の会員権の平均価格(主要150コース)は前月比0.1%安の223万円だった。2021年7月以降、8カ月連続で200万円超の高値で推移している。

仲介大手の桜ゴルフ(東京・中央)によると、価格帯別では、300万円以上500万円未満のクラスで値上がり率が2%と最も大きかった。これまでは150万円以上300万円未満のクラスが人気だったが、「予算を引き上げてより高級なコースを楽しむ需要が増えている」(佐川八重子社長)という。